

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(特別支援学校東紀州くろしお学園おわせ分校)

1 目指す姿

| | | |
|------------|--|--|
| (1)目指す学校の姿 | 児童生徒一人ひとりの可能性を引き出し、元気いっぱい、笑顔いっぱい、光いっぱいの『くろしお学園』をつくる。 | |
| (2) | 育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) | <ul style="list-style-type: none"> ①地域の関係機関・団体と協働して学習を進めている。 ②地域の小・中・高校等との交流を盛んに行っている。 ③自らの持てる可能性を伸ばそうと努力している。 ④学校における学習活動等に積極的に取り組み、経験・体験を積み重ねている。 |
| | ありたい教職員の姿 | <ul style="list-style-type: none"> ①特別支援学校に勤務する教職員として、児童・生徒の障がいに基づいた誠実な支援により児童・生徒及び保護者関係者からの信頼に応えられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に臨んでいる。 ②地域の企業・関係機関・団体と協働し、児童・生徒の卒業後の進路保障に積極的に取り組んでいる。 ③地域の小・中・高校等との交流が円滑に進むよう積極的に取り組んでいる。特別支援教育のセンター的役割を果たすため、地域の学校へ専門的なアドバイスを行うとともに、自己研鑽を重ね専門性を高めている。 ④教育環境をソフト・ハード面で整備し、児童・生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう積極的に取り組んでいる。 ⑤ワークライフバランスを意識し、働き方の見直しと時間外勤務の削減に取り組んでいる。 |

2 現状認識

| | | |
|----------------------------|---|--|
| (1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 | <ul style="list-style-type: none"> <児童・生徒> ・健康で笑顔で、安心して学べること ・可能性を伸ばし、社会的に自立すること <保護者> ・児童・生徒が、健康で笑顔で、安全に学べること ・児童・生徒の進路が保障されること <地域の障がい児を持つ保護者> ・施設見学等の情報提供の機会があること ・教育相談の機会があること <地域の教職員> ・特別支援教育の研修が実施され、専門的知識が提供されること ・特別支援教育に関する相談の機関であること | |
| (2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待 | 連携する相手からの要望・期待 | 連携する相手への要望・期待 |
| | <ul style="list-style-type: none"> <保護者> ・有意義な学校生活と進路保障 <福祉・医療機関> ・連携強化と情報共有 <地域の公立学校等> ・研修と専門的知識の提供、教育相談 <地区の企業等> ・就労に向けた連携 | <ul style="list-style-type: none"> <保護者> ・教育活動への理解、支援と参画 <福祉・医療機関> ・卒業後も含めた切れ目のない支援・相談体制の充実 <地域の公立学校等> ・人事交流と本校への理解、協力 ・交流活動の充実 <地区の企業等> ・学校への理解、協力 |

| | | |
|------------------|-------|--|
| (3)前年度の学校関係者評価など | | <p>○(地域支援について)支援学級に限らず、普通学級に在籍する支援を要する子への指導の在り方など特別支援教育の専門的な助言が必要な状況はであると推察される。地域の小中学校は、くろしお学園に相談することを躊躇しているのかもしれない。定期的な情報交換会を行うなどして気楽に相談できる関係性を築いていただけるとよい。</p> <p>○(副次籍の交流について)本人・保護者の感想を相手校に共有し、ニーズや要望を踏まえて両校でよりよい内容を検討していけるとよい。</p> <p>○(情報発信について)写真を載せたくない人への配慮は必要だが、ホームページは活動の様子が見える写真が多いほうが見やすい。</p> <p>○(高等部卒業後の支援について)一般就労した卒業生にはパラスポ等、障がい者のイベント情報が届きにくいのではないかと。何かできるとよい。</p> |
| (4)現状と課題 | 教育活動 | <p>○交流の充実を図るため、交流先との情報共有や意見交換を進める必要がある。</p> <p>○学習指導要領を踏まえた適切な学習内容を計画的に配置し、児童生徒の実態や課題に応じた指導を行うため研修を進める必要がある。</p> <p>○進路情報や学校の様子など様々な機会を通じて容易に情報発信できる仕組みを整え、学校が保護者や地域の関係機関と良好な関係性を相互に築けるよう働きかける必要がある。</p> |
| | 学校運営等 | <p>○児童生徒や保護者が相談できる機会を充実させるとともに、外部講師を活用した学習機会の充実を図り、児童生徒の教育的諸課題の早期発見と早期対応につなげていく必要がある。</p> <p>○さまざまな研修機会を通じて、学校に新たに導入された情報機器や校務支援システムなどの活用に向け、教員のスキルアップにつながる取り組みを進める必要がある。</p> <p>○地域の幼稚園や保育園、小中学校に向けて、高等部卒業後の進路希望に応じて必要とされる力や障がい特性についての理解などが深まっていくよう働きかけを進め、高等学校との連携の在り方を検討する必要がある。</p> |

3 中長期的な重点目標

| | |
|-------|---|
| 教育活動 | <p>①<個々のニーズに応じた授業の実施> 個々の特質を把握し、そのニーズを十分踏まえて「個別の教育支援計画」等を策定する。これらに基づき教育課程や学習計画を作成し、児童生徒の自立に向け、多様な生活学習の場を提供する。</p> <p>②<進路支援の充実に向けた取組> 「個別の移行支援計画」を策定し、地域、関係諸機関との連携を図りながら児童生徒の支援を継承する体制を確立するとともに、卒業後の進路選択肢の拡大に向けた取組と情報提供を行う。</p> |
| 学校運営等 | <p>①<専門性向上の取組> 教職員一人ひとりが、特別支援教育に関する幅広い知識を持つとともに、1つ以上の分野(特質・疾病等)について、専門的な知識・技術を持ち、地域からの相談に応じられるようにする。また、センター的役割を果たすため、教材や図書室等資料を整備し、地域等への貸出しを行う。</p> <p>②<地域ネットワークの拡大> 地域の保・幼・小・中・高各学校、園や福祉関係施設、行政機関等との連携を強め、個人情報に配慮して情報共有を図る。また、紀南地域でセンター的機能を果たす本校との連携も深める。</p> <p>③<児童生徒の安全・安心かつ充実した学習環境の整備> 児童生徒が安全に学校生活を送ることができる環境を整備する。</p> <p>④<情報提供による信頼の構築> 保護者や地域の「信頼」を確保し続けるために、さまざまな広報媒体を効果的に</p> |

| | |
|--|--|
| | 組み合わせた情報発信を行う。 ⑤<職場環境の整備> 教職員が、意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、目標・目的を共有する。話し合いの場を設定し、業務内容の見直しや過重労働の削減などに取り組む。 |
|--|--|

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|-----------------|--|--|----|
| 個々のニーズに応じた授業の実施 | 【小学部】 体力の維持・向上と健康管理 ○活動指標 ・ベーシックタイムに参加して、体力の維持・向上を図る。 ・食環境を整備して、肥満度(指数)を維持する。 ・家庭や医療機関と連携し、児童の体調把握に努める。 ○成果指標 ・ベーシックタイムの参加率90%以上 ・肥満度(指数)の現状維持 ・対象児童の療育相談やリハビリに2回以上参加する。 | 【小学部】 ・ほぼ毎日、ベーシックタイムに参加できた。 ・[参加率:91%(不参加51回 529/580)] ・児童4人中2人は維持、2人は肥満度が上がった。 ・療育相談、リハビリの参加回数:4回 | ◎ |
| | 【中学部】 朝のベーシックタイムの取組(学校周りのランニングや体育館での歩行訓練、車いす走行校訓練等)を通して生徒の体力向上を目指す。 ○活動指標 ベーシックタイムで生徒個々の周回数を毎回記録し、その増減を目安として、生徒各自が周回数アップを目標とする。 ○成果指標 ・生徒各自が、出来る限り、継続的に走り、周回数(走行距離)が向上することを目指す。 | 【中学部】 ・朝のベーシックタイムでの取組では、毎時の開始時に目標となる周回数を確認し合い、目標に向かって取り組むことで、基礎体力の向上が図れた。 ・毎回の周回数を記録し、周回数アップを図ることができた。 ・評価指標の継続的に走るといった点については、言葉かけなどの指導により、継続的に走れる生徒が増えた。周回数の向上がみられたので、今後も継続して指導は行っていくが、課題の残る生徒に対してもペース配分等の指導なども継続的に行ってい | ◎ |

| | | | |
|-----------------------------|---|--|-------------------|
| <p>進路支援の充実に向けた取組</p> | <p>【高等部】 卒業後の進路を見据えて、生徒の実態に応じた目標を設定し、振り返りをする。 また、日常の教育活動の中で目標を反映させながら取り組むことでその実現を図る。</p> <p>○活動目標 ・進路に関する現状と課題についての情報を共有し、高等部としての共通理解のもと、個々の進路指導にあたる。</p> <p>・個々の生徒の進路にかかわる目標について情報共有する。</p> <p>・目標達成に向けた指導・支援の工夫等授業改善に取り組む。</p> <p>○成果目標 ・現場実習(年2回)終了後に生徒の状況について、情報共有する。 ・目標設定や手だて等の、振り返りを年に2回行う。 ・職業の授業について内容検討をする。 ・学期に1回、進路担当から生徒・保護者に情報提供する機会を設ける。</p> <p>【教務・研修部】(教務) 本人・保護者のニーズを基に教育支援計画・個別の指導計画を作成し、それに基づき指導を行う。</p> <p>○活動目標 ・年度初めにシラバスや教科別の年間指導計画の作成を行う。</p> <p>・各授業における指導案の作成を行う。</p> | <p>きたい。</p> <p>【高等部】 ・卒業後に必要とされる力や、個々の生徒の特性についての情報交換を行い、職業をはじめとした様々な学習の目標設定に生かして、教育活動に取り組んだ。 ・生徒一人一人に重点的に付けたい力を明文化し、学部会で話し合いを持ち、生徒理解に努めた。 ・年3回、生徒の目標を確認し、生徒の状況や支援の手だて、配慮事項等の変更点を共有できた。 ・個々の生徒の配慮事項について変更があればその都度全体が把握するよう努めた。 ・学部会では担当教員より、進路に関する現状と課題についての情報提供がなされ、高等部としての共通理解のもと、個々の進路指導にあたった。 ・職業の授業内容について、生徒の企業就労への意欲を適切に育成できるよう、引き続き検討していきたい。</p> <p>【教務・研修部】 ・個別の指導計画や支援計画、懇談会や連絡ノートを通じて個々のニーズを把握して課題設定し、指導を行うことができた。</p> <p>・今年度は例年より早くに高等部単一クラスのシラバスを作成し、生徒に配布することができた。また、その他のクラスについても、教科別の年間指導計画を作成し、それに基づいて指導を行った。 ・指導略案の作成については、各教科や各担当により書き方や配付の仕方が異</p> | <p>◎</p> <p>◎</p> |
|-----------------------------|---|--|-------------------|

| | | | |
|--|---|---|-------------------|
| | <p>・授業後の振り返りを行う。</p> <p>○成果指標 ・年度末にアンケートを行い、支援計画・個別の指導計画の目標を考え各授業に取り込むことができたか振り返る機会を持つ。</p> <p>【総務部】 PTA 中心として進路支援活動を行ない、地域の進路先確保を目指すための、保護者の活動を広げる。</p> <p>○活動指標 ・進路支援に係る懇談会や学習会を開催し、保護者へ進路支援の情報や活動の場を提供する。</p> <p>○成果指標 ・進路部と協働し、市町への要望書の作成・提出をする。 ・15名以上(50%)の保護者の学習会への参加を目指す。</p> <p>【進路・教育支援部】(進路) 充実した現場実習となるよう、実習先との打ち合わせや実習後の振り返りを丁寧に行い、生徒が卒業後進路先で必要な力をつけられるよう支援する。</p> <p>○活動指標 ・各生徒の課題や実習で特に取り組みたいことを担任の先生方と共に確認し、実習先との打ち合わせで伝えてもらう。 ・実習後に各生徒が各事業所の職員さんと一緒に振り返りの時間を作ってもらうようお願いする。</p> <p>○成果指標 ・実習後先生方に聞き取りを行い、充実した実習ができたかについて評価し、来年度以降の課題を探る。</p> | <p>なることがあるが、比較的統一された指導案の作成ができた。</p> <p>・年度末アンケート「個別の指導計画に基づいて授業計画、指導がかなりできた・まあまあできた」89% (回答率 19/27)</p> <p>【総務部】 ・11/8(土)に進路支援部と共催して「卒業後の生活について」卒業生の親御様2名を講師に招いて学習会を行なった。</p> <p>卒業後も地域で活動できるように、保護者のアンケートを元に要望書を作成し、進路部と市町へ提出した。 ・学習会には8名申し込みがあったが、6名の参加であった。この日は小中学校の運動会や文化祭、地域の行事が重なり、参加者が少なかった。参加した保護者の満足度は100%であった。</p> <p>・実習前に、担任の先生方と各生徒の課題や今回の実習で特に取り組みたいことを話し合った。そして、その内容を資料に記入し、事業所との事前打ち合わせで伝えてもらうことによって、どのような実習にしていきたいかを共通認識した上で実習することができた。 ・実習後、事業所の職員さんと一緒に振り返りをしたり、声をかけてもらうことは概ねできた。今後の課題について話してもらえらることもあった。</p> | <p>◎</p> <p>◎</p> |
|--|---|---|-------------------|

改善課題

【小学部】

・ベーシックタイム、体育などの活動に参加できたが、肥満度が増加している児童もいる。活動を振り返ること適切な課題を設定して体力の維持や向上・健康管理につなげたい。

【中学部】

・今回、一つの目標として、2月のマラソン大会に向けて周回数が増え、ペースアップができるように、取り組んだ。大幅なペースアップが見られた生徒もいたが、ランニング等への苦手意識から難しい生徒も見受けられた。基礎体力は将来働くために、最低限必要な力であるため、今後も継続的な取り組みは続けたいと考える。

【高等部】

・今後も、スケジュール調整に努め、定期的に情報交換を計画的に行い、教員間の意思疎通を図り、指導支援にあたる。

【教務・研修部】(教務)

・今年度作成した指導計画に基づいて、授業づくりを展開する。
・児童生徒の学習状況や実態を細かく把握したうえで、適切な目標設定を行い評価につなげる。

【総務部】

「学習会を今後も続けてほしい」という保護者からの要望もあるので、日程の見直しや配信を検討する。また、市町への要望書提出も続けて行う。

【進路・教育支援部】(進路)

・実習後の評価について、事業所様からより一層ご意見やアドバイスをいただけるよう、評価表の内容等を工夫していく。また、生徒自身が、これまでの実習を振り返り、自分の目標を意識した実習ができるようにしていく。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

| 項目 | 取組内容・指標 | 結果 | 備考 |
|-----------|---|--|----|
| 専門性の向上の取組 | <p>【教務・研修部】(研修)</p> <p>学習指導要領に基づいた授業計画の作成とそれに基づいた事業実践を行う。</p> <p>○活動指標</p> <p>・学習指導要領に基づき、各学部、学年ごとの年間指導計画を作成する。また、学部間の学習が系統的になるように模索する。</p> | <p>【教務・研修部】</p> <p>・授業が個別化するため指導内容に偏りができてしまいがちではあるが、教科書を使ったり、前年度からの引継ぎ体制を整えたりすることで、計画的にかつ系統的に学習を行えるようになってきた。</p> <p>・全体研修にて各学部、学年、教科ごとに学習指導要領や使用教科書を見て年間指導計画を作成した。それにより、学習指導要領や教科書をじっくり見て現在の学習について考える機会となったり、新たな気づきの観点から指導計画を作成できたりするようになった。</p> | ◎ |

| | | | |
|--------------------------------|--|--|----------|
| <p>地域ネットワークの拡大と充実</p> | <p>・作成した年間指導計画に基づき、日々の学習活動を行う。 ○成果指標 ・年度末にアンケートを行い、専門性について向上することができたかを確認する。</p> <p>【進路・教育支援】(教育支援) 地域の幼稚園、保育園、小中学校や高等学校への巡回教育相談や夏季公開研修会等の実施を通し、小中学校や高等学校の教員の特別支援教育の理解と資質向上を図る。</p> <p>○活動指標 ・年度初めに地域の幼、保、小中学校、高等学校の障がいを持つ児童生徒や、特別支援学級の状況の把握。 ・きめ細やかな巡回教育相談の実施。 ・支援法、教材教具、進路相談等の情報提供。</p> <p>○成果指標 ・学年末に相談内容について振り返り、地域の課題を探り、来年度の研修のテーマを決める。</p> | <p>・作成した年間指導計画を意識し、日々の指導にあたることがおおむねできた。 ・年度末アンケート「全体研修を経て、授業作りの理解を深める専門性の向上につなげることがかなりできた・まあまあできた」89%(回答率 19/27)</p> <p>・地域の幼稚園、保育園、小中学校や高等学校への巡回を行い、特別支援学校のセンター的機能の理解を求めた。各園、校の状況を聞くことができ、後日、支援方法の相談や、進路相談に繋がった。夏季公開研修会やエリア研修を行い、小中学校や高等学校の教員の特別支援教育について資質向上を図ることができた。 ・年度初めの訪問…全紀北町尾鷲市小中学校、高等学校 ・依頼された相談…支援方法改善のための授業見学、進路の見通しについて、進路に関わる支援体制の作り方、校内研修の助言者として参加、 ・進路決定に関わる見学者は、保育園1人、小学校1人 ・教材等を3校へ貸出。</p> | <p>◎</p> |
| <p>児童生徒の安全・安心かつ充実した学習環境の整備</p> | <p>【生活支援部】 安全・安心に係わる児童生徒の満足度調査を実施し、課題を検討する。</p> <p>○活動指標 ・児童生徒への学校独自アンケートを実施。</p> <p>○成果指標 ・1回目のアンケート結果をふまえ、教育活動を修正できたか。 ・2回目のアンケート結果から、次年度に向けた課題の整理ができたか。</p> | <p>【生活支援】 ・学校満足度アンケートを2月上旬に実施。結果は以下の通り。 ①学校は安全ですか?:94.1% ②授業は楽しいですか?:82.3% ③学校生活は楽しいですか?:88.2% ・引き続き、現在の指導を継続していくとともに、満</p> | <p>◎</p> |

| | | | |
|--|--|---|----------|
| | <p>【学校全体】 自然災害等を想定した訓練や関係機関との連携を図り、学校防災に努める</p> <p>○活動指標 ・年間を通じて訓練等の防災教育を実施し、地域の防災担当者と打ち合わせを実施する。</p> <p>○成果指標 ・訓練の実施回数、年3回以上</p> <p>・打合せの実施回数、年2回以上</p> <p>地域の学校との交流を進め、様々な学習機会の充実を図る</p> <p>○活動指標 ・居住地校との交流や副次的な籍への取り組みを進め、学校間交流を進める。</p> <p>○成果指標 ・希望する児童生徒の交流実施率100% ・交流実施回数1人3回以上</p> <p>ホームページによる情報提供や報道機関への資料提供を通じて、本校の教育活動を情報発信していく。</p> <p>○活動指標 ・ホームページの定期的な更新を行う。</p> <p>○成果指標 ・ホームページの更新月1回以上</p> <p>・報道機関への資料提供年5回以上</p> <p>職場環境の整備 教職員が、健康で意欲的に教育活動に取り組むとともに、コンプライアンスを意識して業務を遂行する職場環境を醸成する。</p> <p>○活動指標 ・原則として、毎月第2、第4金曜日を定時退校日とする。 ・会議は40分(16:10~16:50)以内の終了を目指す。 ・連絡事項はオンラインを活用する。 ・日曜日は出勤しない。</p> | <p>足ではないと答えた生徒については、必要に応じて個別に聞き取りを行う。その中から出てきた課題を他の教職員と情報を共有し、学校全体で課題解決に向けて取り組みを進めていく。</p> <p>・尾鷲消防署と連携を図りながら訓練を実施した。</p> <p>・地域の担当者と連携を図りながら防災教室を実施した。 ・年間を通して3回実施することができた。 ・尾鷲警察 尾鷲消防署 打ち合わせ実施回数2回</p> <p>・3名が尾鷲中と、1名が三船中と副次的な籍の取組を実施しすることができた。 ・希望者4名 100% ・3名は2回、1名は3回実施。</p> <p>・1学期:HP更新2回 写真の更新1回 2学期:HR更新2回 写真の更新1回 3学期HP更新1回 写真更新2回 ・報道機関への提供 5回</p> | <p>◎</p> |
|--|--|---|----------|

| | | | |
|--|---|--|--|
| | <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日に定時退校できた職員の割合 80%以上 ・時間内に終了した会議の割合 80%以上 ・1人当たりの月平均時間外労働時間 12 時間以内 ・月 45 時間を超える時間外労働者数 0 人 ・年 360 時間を超える時間外労働者数 0 人 ・1人当たりの年間休暇取得日数16日以上 ・オフサイトミーティングを年1回以上実施する。 ・コンプライアンスミーティングを年3回実施する。 ・年度末の職員アンケートで満足度 80%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日(1/23 現在) 16日 87% ・放課後の会議(2/4 現在) 65回 81.5% ・7.3(12月末現在) ・1人 ・0人 ・16.8日 ・1回実施(分校で開催) ・3回実施 ・17項目 87% | |
|--|---|--|--|

改善課題

| |
|---|
| <p>【教務・研修】(研修) ・学習指導要領や年間指導計画をもとに、より個に沿った指導ができるように研修を行う。</p> <p>【進路・教育支援】(教育支援) ・市町各小中高の学校にセンター的機能の概要を伝えることはできたが、内容や、利用方法についての理解については、学校により、様々である。今後も、年度初めの訪問を行い、コーディネーター担当の先生方との連携を求めていく必要がある。それと共に就学指導委員会や、紀北特別支援教育研修会に参加し、市町学校の状況の把握や、情報共有に務め、相談事業がしやすい状況作りを進めていきたい。</p> <p>【生活支援】 引き続き、現在の指導を継続していくとともに、普段の生活で気になることがあれば、積極的に声をかけ、生徒が自ら相談しやすい雰囲気を作っていく。</p> |
|---|

5 学校関係者評価

| | |
|----------------------------|---|
| <p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○保護者学習会では、一般就労した生徒、就労支援事業所に入所した生徒、生活介護事業所に入所した生徒・保護者のそれぞれから話を聞ける場があるとよい。一般就労した生徒からは、就労決定先までの経緯を聞けるとよい。また余暇活動や障害年金についての学習会もあるとよい。 ○ベーシックにダンスや縄跳びなど、さまざまな活動を取り入れ、運動が苦手な子どもが前向きに運動するような工夫ができるとよい。 ○社会モデル等、障害者差別解消法の考え方について、地域の小中学校の特別支援学級担当者に対する研修もできるとよい。そのためにはおわせ分校職員の研修も進めていく必要がある。 |
|----------------------------|---|

6 次年度に向けた改善策

| | |
|---------------------|--|
| <p>教育活動についての改善策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度に引き続き、卒業後の就労を見据え、本人や保護者のニーズを把握し、体験的な学習を通して職業教育の充実を図っていきたい。 ○副次的な籍の取組については相手校と連携を密に取り、本人保護者の希望に沿った活動内容が実施できるように取り組んでいきたい。 ○学習指導要領に基づき、個々の実態に応じて各教科が年間指導計画を作成し、系統立てた指導を行うことにより、知識・技能の向上を図っていきたい。 |
| <p>学校運営についての改善策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○多様化する児童生徒の対応について、指導する職員一人一人の資質能力向上に向けた指導体制の強化を進める。 ○職員同士のコミュニケーションの活性化を目指し、相談しやすい風通しの良い職場環境づくりを進める。 ○業務の引き継ぎ体制を進めていくとともに手順のマニュアルを作成していく。 ○災害を想定した体験型防災訓練を定期的実施していく。 |

